

Y20b 「高校生天体観測ネットワーク」の実施状況としし座流星群の教育的意義
有本淳一 (塔南高校)、鈴木文二 (三郷工業技術高校)、高校生天体観測ネットワーク運営委員会

高校生天体観測ネットワークは1998年のしし座流星群の同時観測会から始まり、今年度で4年目を向かえた。この間に観測対象はしし座流星群だけでなく、月食や木星食などにも広がり、参加した生徒も4年間でのべ5000名を越えた。そもそもは教育目的で始まったネットワークではあるが、特にしし座流星群に関しては天文学的にも重要な成果をあげることができた。(詳細は他の講演で報告する。)

本ネットワークは年度毎に参加登録をするシステムになっており、年度の終わりに参加形態や教育的意義についてのアンケートを実施してきた。98年、99年のアンケートについては天文教育普及研究会等で報告してきたが、それは単年度のまとめに過ぎなかった。本講演では98年から今年度までのアンケート結果を再集約し、時系列で参加形態や実施状況がどのように変化してきたか、また、このような取り組みが学校現場に根付いてきたかどうかを報告する。

また、本ネットワーク参加者以外にも全国の教育関係者に昨年11月のしし群を教育的にどのように扱ったかのアンケートを実施した。この結果も合わせて報告する。これらをあわせてイベントのような天文現象が学校現場でどのように扱われているか、どのような意義があるか、また、一過性のイベントだけに終わらせないためにどうすべきかということについて議論したい。